

栗島しおかぜ地域共生プログラムの構築研究

—島資源を活かした学習・ツーリズム・産品開発と首都圏連携による雇用・定住促進策の検討—



大正大学NCPフィールドワーク「地域づくり教育論」研究グループ

報 告 高橋咲紀

参加学生 阿部雄太 阿部ゆり 内田歩実 角田祐基 高橋咲紀

佐原多恵 花岡史悠 土方優紀 眞野聡美 幅野裕敬

担当教員 出川真也(大正大学地域構想研究所)

調査研究の背景・目的



豊かな海と里山に囲まれた粟島の集落

- 人口350人余り
周囲20km
- 人手不足により環境の劣化や生業の低迷が危惧
- 島のさまざまな資源を掘り起こし活用策を検討
- 島民と島外者が共に取り組める島づくりプログラムを作成する

1. 調査研究

(1) 現地調査と住民とのワークショップの実施

1) 里山・集落・海での調査

地域住民と学生が3グループに分かれてヒアリング①



島で採れた魚を現地の方にさばいていただく



島の作物について教えていただいた

1) 里山・集落・海での調査
地域住民と学生が3グループに分かれてヒアリング②



集落での生活文化の調査

2) 大謀網漁の見学

実際に漁船に乗せていただき撮影



定置網引き上げの様子



引き揚げた魚を仕分け

(2)試行プログラムの作成と検討

島内の里山・農業・生活文化(工芸品・料理・共同作業・年中行事等)に焦点を当て、担い手である高齢者の営みに着目。

1) 生活文化・年中行事の調査
工芸品や郷土料理、100近くあるイベントについて
ヒアリングを実施



七夕の様子



郷土料理「えごねり」の試食

2) 住民との意見交換 活用可能性があるフィールドの紹介や事業展開 について意見・情報交換



調査でわかったことを
地図に書き込む



調査結果の発表・情報の共有

(3) 試行プログラムの実践と修正

「おばあちゃん・おじいちゃんのお手伝い」
をテーマにして試行プログラムを実践

1) 農業分野のお手伝い 豆の選別を行って発見したこと・考えたこと



島のおばあちゃん(左)と
豆の選別作業



味噌作りに使える豆

2) 生活文化分野の体験①

てごあみ体験と釣りの体験を通して発見したこと・
考えたこと



みんなで楽しく
てごあみ作り



地元の子どもたちと
一緒にアジ釣り

2) 生活文化分野の体験② 郷土料理教室と地元との交流



(4)首都圏におけるプレゼンテーション・プロモーション活動

1) 都市部生涯学習施設での発表 豊島区「みらい館大明」での発表



関心のある住民に学生が説明

2) 学園祭での展示 大正大学「鴨台祭」での展示・発表



栗島についての展示



展示に見入る来場者

離島物産展におけるPR 池袋で開催された「アイランダー2016」において島の PRや物産販売促進のお手伝い



学生がPR活動のお手伝い



物産販売以外にも有志による
伝統芸能の披露も行われた

(5)モデルプログラムの作成と実施体制づくりの検討

モデルスケジュール例

<1日目>

| | |
|----|---|
| 昼 | 粟島港到着 昼食とレクチャー |
| 午後 | プログラム1 里山、畑、共同作業から季節に応じて選択 ※雨天時はテゴ編み作り |
| 夕 | プログラム2 郷土料理教室・会食 |

<2日目>

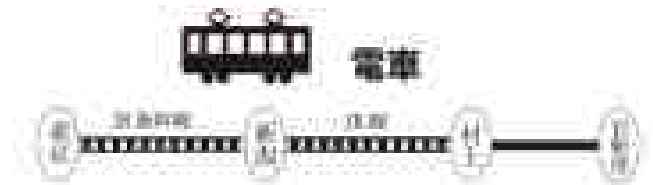
| | |
|----|---|
| 午前 | プログラム3 里山、畑、共同作業から季節に応じて選択 ※雨天時はテゴ編み作り 乙姫の湯(温泉)入浴 |
| 昼 | 昼食・出発準備 |
| 午後 | 粟島港出港 |

持ち物・服装等

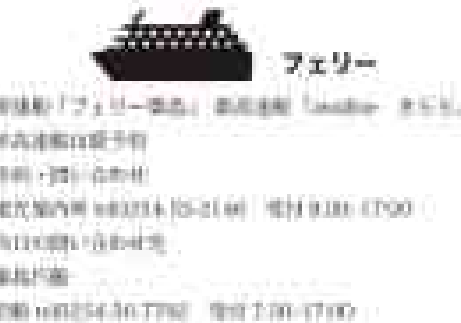
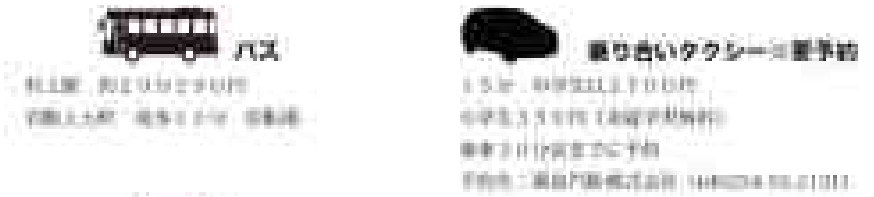
野外活動に適した服装(長袖長ズボン)、エプロン(郷土料理教室)
帽子・手ぬぐい・入浴道具等



東京から粟島港まで



村上駅から粟島港まで



本プログラムに関するご相談は、
離島と都市を結ぶ地域づくり学習研究会
(大正大学地域構想研究所・出川)まで。
tel 03-5394-3048
fax 03-5394-3055
mail s_degawa@mail.tais.ac.jp

デザイン・構成 佐原多恵・土方優紀・内田歩実・出川真也
調査・取材 角田祐基・高橋咲紀・眞野聡美・阿部雄太・阿部ゆり・花岡史悠

粟島とは

粟島浦村は人口350人余り、日本海に浮かぶ周囲20kmほどの離島の村です。本土側からは新潟県最北端の市である村上より汽船で1時間半ほどの位置にあり、澄んだ海と豊富な海産資源、そしてかつては野生馬を育んだ里山の恵みが魅力です。西海岸は日本海の荒波に洗われた岩礁地帯となっており、まさに絶景と呼ぶにふさわしい風光明媚な景観が広がっています。

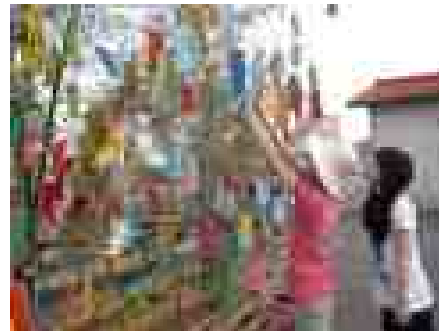
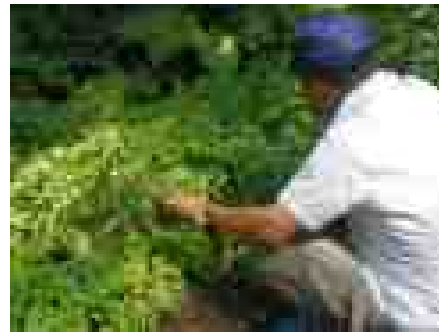
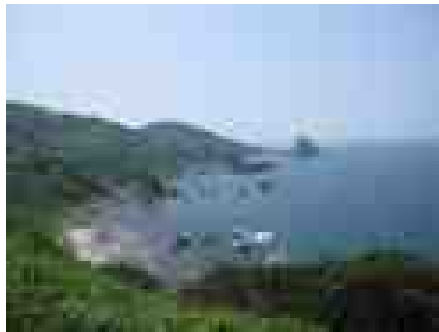
あわしま

おじいちゃん・おばあちゃんとの
出会いと島のお手伝い

お手伝いプログラムの概要

粟島の美しい海は、里山や畑でろ過されたミネラル豊かな島の沢水によって育まれています。まさに粟島のおじいちゃん、おばあちゃんたちは、長年にわたって里山の手入れを行い畑を耕すことで、この美しい海を耕してきたといえます。

このツアーは、島外からの来訪者と島の人たちがともに、里山、畑、共同作業、各種手仕事・伝統行事への参加など島伝統の暮らしのお手伝いに取組むことを通じて、人と自然を元気にしていくプログラムです。



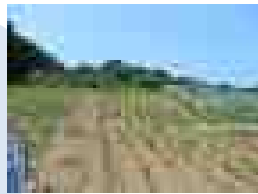
本パンフレットは平成27年度新潟県大学生の力を活かした集落活性化事業により作成されました。

島のおばあちゃん・おじいちゃんお手伝いプログラム

①春：畑仕事のお手伝い 3～10月

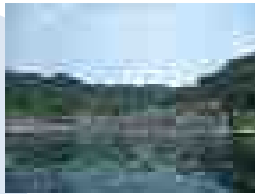
3月～5月種まき・6月～10月収穫

葉物類の収穫と、じゃがいも・えんどう・玉ねぎ・金時豆・かぼちゃ・さつまいも・長芋などの栽培のお手伝い。島のお母さんたちと一緒に畑仕事をして、採れた食材を使った伝統料理に親しむことができます。



②春：ワカメ採り・浜清掃・山道作り 3～4月

集落の大切な生業の一つワカメ採り。集落共同でワカメの収穫を行い、部位で分け、干していきます。作業後の交流会でいただく生ワカメのしゃぶしゃぶは絶品です。また、浜清掃や大工仕事が必要な山道づくりなど、島の暮らしに欠かせない作業のお手伝いをします。



③春：山菜採りのお手伝い 3月～5月

里山を歩いて山菜の収穫、そして塩漬け・瓶詰などの加工のお手伝い。山菜は月によって採れるものが違い、様々な収穫物を味わうことができます。また、作った料理は食べたり、お持ち帰りしたりできます。



④春・秋・冬：郷土料理教室

山仕事や畑仕事の後は、その恵みを料理に。収穫したばかりの山菜や野菜を、粟島の海の幸と合わせていただくプログラムです。島のおばあちゃんたちから郷土料理、手料理を学び、一緒に試食をします。



⑤秋：畑仕事のお手伝い 10～11月

大根・かぶ・大豆などの収穫と、にんにく・菜っ葉の種入れ、キャベツの植え付けをお手伝い。来春に向けて作物を植え付けたり、島の冬の畑について体験することができます。また、冬ならではの郷土料理を楽しむこともできます。

⑥秋：磯道普請のお手伝い 11月

冬の岩海苔つみのための道づくりのお手伝い。海の裏手の山にクワなどを使って通り道を作り、冬でも海におりられるようにします。また、磯道を使って収穫できる岩海苔・その他海産物を楽しめます。



⑦秋：里山再生のお手伝い 9～11月

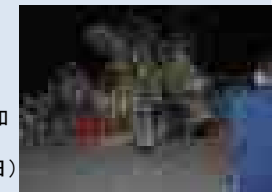
竹、杉、雑木林の手入れをお手伝い。竹の伐採、杉・雑木林での薪取りをした後、竹灯笼やおもちや、ストーブ・ボイラー用の薪を作ります。作った竹のおもちを持ち帰ることができます。



島外者もお手伝いできる島行事

島には100近い年中行事が存在していました。その中から島外の方も一緒に取組める年中行事を5つ厳選。お手伝いプログラムと共に島人との交流を深めましょう。

- ① 乗り初め漁神楽(1月11日)
漁師の祭り
- ② 七夕(8月6日)
舟を流す
- ③ 盆踊り(8月13・14日)
楽しくおどる。事前練習参加者は太鼓・うたいも可能
- ④ 釜谷六所神社祭礼(10月8日)
竹灯笼作り
- ⑤ 八所神社祭礼(10月26・27日)
灯笼やのぼりを立てたり、神輿を担ぐ



⑧冬：テゴ編みのお手伝い 12～2月

紐、カツラなどの植物で、ポシェットバッグのような万能物入れを編んで作るお手伝い。島のお母さんたちによく使われているテゴは、山菜採りや海藻採りにも役に立ち、カバンのように使うこともできます。

※雨天時のプログラムにもなります。



3.成果

(1)里山・農業・生活文化への着眼
観光・漁業以外の分野での島外者参加の可能性



学生が七夕準備に参加



楽しくてごあみ体験
出来栄を確認

(2)高齢者を軸とした営みに着眼

- 島の高齢者の暮らしと営みに光をあて、課題となっている人手不足に対応するとともに島を支える自然・文化の保全継承を図る



七夕祭りに使うやせうま作りについて話すおばあちゃん

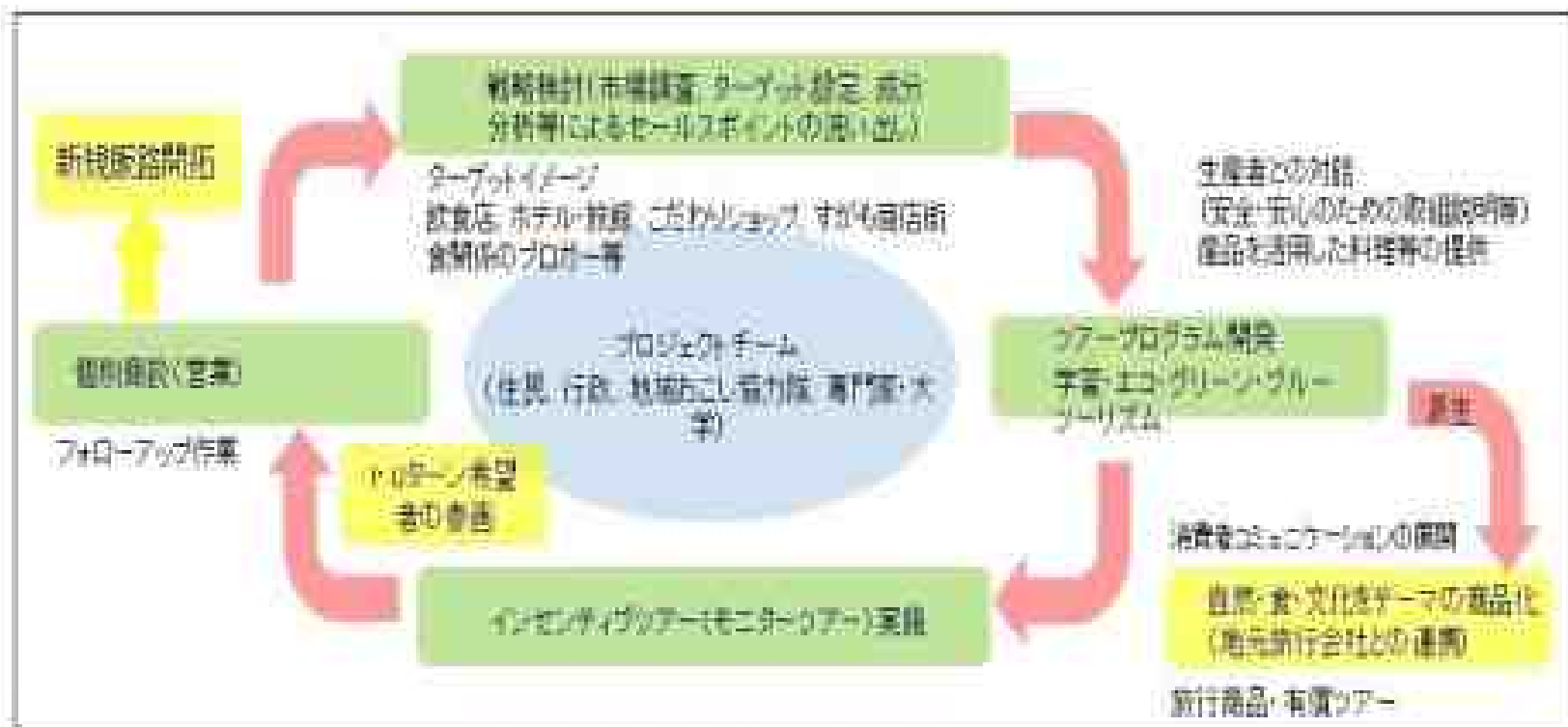
(3)都市住民部住民の参加協働・連携 方策の検討

- ・観光という枠組みを
超えた新たな島づ
くりの参加協働の
形態を構想



(4)新たな事業展開の可能性

- 島のお手伝いを掲げることで、島内外の人材・担い手の育成方向を提示し、交流ビジネス事業の可能性を示唆



自前産産物を見据えて、①学習プログラム、②ツーリズムプログラム、③産品開発を相乗的に実施。販売促進とともに雇用創出・定住促進効果を生み出していく。

今後の課題と展望

(1)モデルプログラムの試行実践

プログラムの確度をより高めるために、季節ごと分野ごとのさらなる試行実践の積み上げとデータ蓄積が必要



地元住民と
調査データの書き込み



生活文化を実際に体験

(2) 運営体制づくりと事業化に向けたプロセスの構築

- ・具体的な実践には、島内・島外の双方にコーディネートできる仕組みが必要。
- ・現在の限られた人材資源では新たな組織体の設立は困難
- ・島内・島外の関連団体のネットワーク化により実質的な運営体制の構築をし、事業化に向けたプロセスを進めていくことが求められる

